活動目標２　地域みんな(日常生活圏域)で支えあう環境づくりの推進

活動の柱４　地域福祉活動を支えるボランティア活動の促進

現状と課題

住民にとってボランティア活動とは、地域福祉活動へ参加をするきっかけとなります。地域には「社会や人の役に立ちたい」といった考えをお持ちの方が多くおられるため、このような意志を受け止め、ボランティア活動に参加しやすい情報提供を行うとともに、活動の場の提供と、日常生活で周りの手助けを必要とする当事者へつなぐ調整機能を適切に発揮できる体制づくりが必要です。

取り組みの内容

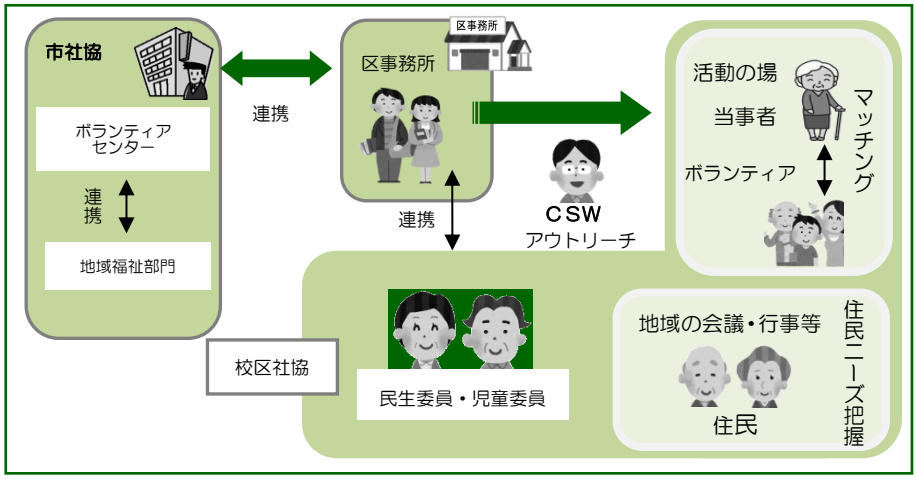
①　市民活動・ボランティアセンターの機能強化

様々な世代や立場の方が、ボランティア活動に主体的に参加するといった担い手（ボランティア）の育成と活動を担う団体への支援を行い、多くの市民が、ボランティアとして参画できる環境整備を行うとともに、ボランティアセンターが全市的な調整機関として、地域ニーズの分析や活動プログラムの開発を担い、区事務所が地域における推進機関として、住民ニーズの把握や日常生活で周りの手助けを必要とする当事者とボランティア活動者とのマッチングを行います。

②　区事務所の役割強化

地域ニーズや住民の生活課題の把握にあたっては、区事務所職員がＣＳＷ（コミュニティソーシャルワーカー）として、地域へアウトリーチを図り、民生委員・児童委員や関係者と連携のもと、直接ニーズに耳を傾けることにより、地域との関係性や社会資源を活用したアプローチの方法を模索し、当事者とボランティア活動者が対等な立場を確立するための働きかけを行います。（図５参照）

図５　ボランティアコーディネートのイメージ



熊本市社会福祉協議会
ボランティアセンター

③　地域を基盤とした福祉教育の推進

長期的な展望をもって、地域福祉活動を支える次世代の担い手を育成するためには、子どもたちを対象とした福祉教育の実践は大変重要となります。地域の中で、子どもたちが、思いやりの心や相手の気持ちに共感できる力を育む「地域での学びの場」をつくり、高齢者や障がい者を含めた様々な方々との交流や体験学習を通し、子どもたちが自分が暮らす地域の中で「ともに生きる力」を育むことができる環境づくりを行います。

また、本会が、学校、家庭、地域と連携を図りながら、年代に応じた福祉教育プログラムの企画・提案を行い、地域全体で取り組む福祉教育の実践へとつなげます。

昔遊びや高齢者宅訪問、ボランティア体験学習、寺子屋など、地域での「学びの場」をつくり、福祉教育の実践に取り組みます。

具体的施策

事 業 名	事 業 概 要
子どもの遊び場づくり	子どもたちが昔遊びを楽しんだり、地域の方と交流できる拠点づくりをすすめます。
ジュニアヘルパー養成事業	小学生や中学生が、登下校や休日に、地域の一人暮らし高齢者宅を訪問し、見守り活動を含めた日常生活での世代間交流を図ります。
ワークキャンプ・ ボランティアスクール	小学生、中学生、高校生を対象とした福祉・医療施設での車いす体験や介護体験を行います。
ボランティア コーディネートの充実	地域ニーズへの対応力と総合調整力の向上を図るため、区事務所職員（ＣＳＷ）のスキルアップを図ります。
ボランティア登録・相談事業	ボランティアへの参加意欲がある方々の登録を推進し、活動実践者への助言を通して、ボランティア活動の活性化を図ります。

活動の柱５　地域福祉を支える団体との連携・協働

現状と課題

地域みんなが支えあう環境を整えるためには、住民主体による地域福祉活動を推進し、校区社協や民生委員・児童委員、自治会等、地域福祉を支える各種団体間が自分たちが暮らす地域のニーズや住民の生活課題等について情報の共有化を図り、課題解決のための方向性について合意形成をめざしながら、地域力を結集することが大切です。

取り組みの内容

①　住民参加型ワークショップ（座談会）の実施

住民参加型ワークショップ（住民座談会や懇談会）を全校区で開催し、地域に顕在化・潜在化する住民の生活課題の発掘を行い、課題解決のために必要な方向性を示す「校区社協行動計画」を策定することにより、校区社協を中核とした地域福祉活動の展開を図り、住民の参加と協働をすすめます。

本計画と地域版の計画を効果的にリンクすることにより地域住民と一体となった地域福祉の推進をめざします。

住民座談会

②　地域各種団体との連携強化

校区社協や民生委員・児童委員、自治協議会との更なる連携強化を図るため、地域での会議や研修へ積極的に参加することにより、信頼関係の構築と情報の共有化を含めた連携強化を図ります。

校区社協と協働で定期的に開催しているブロック会議においては、地域の特性を活かした地域福祉活動の更なる活性化に向け、積極的に情報提供や活動プログラムの提案を行います。

熊本市民生委員児童委員協議会
理事会

校区社協主催の
地域支援ネットワーク連絡会

校区社協ブロック会議

③　多職種間ネットワークの構築

住民の生活課題が複雑・多様化する中、地域の力だけでは解決できない問題も多くあります。住民の暮らしの安全や健康、支援が必要な高齢者や障がい者、子育て家庭等へ、適切な支援策を見出すためのコーディネートを行うため、福祉施設や医療機関をはじめ、住民の生活サービスに関わる事業者等とのネットワークを構築し、地域支援と専門支援を融合した多職種間による地域福祉推進力の拡大を図ることにより、新しい日常生活支援のあり方を探ります。

熊本市社会福祉協議会と熊本市老人福祉施設協議会とのワークショップ

地域各種団体関係者と福祉・医療専門職によるネットワーク会議

④　ＣＳＲ（企業の社会貢献活動）の活用

民間企業のＣＳＲを地域福祉活動につなげ、企業参加型の日常生活支援サービスを開発し、民間活力と連動した地域福祉の推進を図ります。

高齢者元気づくり応援協定調印式（平成音楽大学・熊本ベルェベル美容専門学校・専修学校熊本ＹＭＣＡ学院）

具体的施策

事 業 名	事 業 概 要
地域各種団体との連携強化	校区社会福祉協議会や民生委員・児童委員、自治協議会との連携強化を図り、地域の特性を活かした地域福祉活動を推進します。
住民参加型ワークショップ（住民座談会）の開催	小学校区毎に、住民座談会を開催し、地域のニーズや住民の生活課題の把握を行い、住民とともに解決策についての方向性を見つけます。
校区社協行動計画の策定	住民座談会での意見をもとに、校区社協行動計画を策定します。
日常生活応援協定の締結	民間企業と連携を図り、高齢者や障がいのある方々の生活支援サービスの開発に努めます。